

今回は、FRH年間計画の変更に関するお知らせです。

◇ 感染症対策と探究活動 ～地域連携の新しいあり方の模索～

例年、本校の探究活動では、1・2年生全員がフィールドワークを含むグループ活動を実践していますが、当面の間、新型コロナウイルス対策のため、グループ活動やフィールドワークを円滑に実施することができません。

当然、活動は個人主体で進めていくことになります。ひとりで取り組みながらも、地域連携や協働活動を実践していけるような工夫はできないか。関高校職員と関市市民活動センター、関市市民協働課、JAめぐみの、中部学院大学等の関係機関との話し合いによって、以下のように年間計画を大幅変更することになりました。

コロナ禍の下で、高校生の探究活動をどうすすめたらいいか。安全な活動とはなにか。関係機関の方々から、さまざまなアイデアやご支援をいただいています。関高校の探究活動は、2014年以来培ってきた地域の方々との連携によって支えられています。

◇ 臨時休業中の課題 ～NIEとMBL～



今年度最初の「壁」は長期にわたった臨時休業でした。この間、在宅中の課題として、SDGsに関する学習、新聞学習(NIE)、メディア学習(MBL)を1・2年生共通課題として課しました。1つ目はSDGs学習はグローバル課題と身近な地域課題をつなげて考えるためのワークシート、2つ目はSDGsに関わる新聞記事のレポート、3つ目は同じく社会課題を扱ったテレビ番組の関するレポートを課しました。

レポートに取り組む生徒の姿勢はおおむね良好で、選択された新聞記事や番組内容から、生徒が多様な分野に興味・関心を寄せていることがわかりました。

◇ 1年生・課題解決型研究 ～企業とともに地域でSDGsを実現～

昨年度の1年生は、関市役所のバックアップを受けて、SDGsとつながる地域課題の解決に向けて取り組みました。本年度は、関市市民活動センターや関市青年会議所の協力を得て、関市内の企業のSDGsに関する取り組みについて学び、個人で研究を進める予定です(市民活動センター・北村隆幸氏のオンラインセミナー)。

例年の夏季フィールドワークに変え、企業の方を講師とするオンラインセミナーを行います。その上で具体的なテーマを決めて探究活動を行い、レポートやポスターにまとめます。

SDGsは2030年までの目標です。この目標をめざす上で、企業の果たす役割は大きいと言われています。「社会貢献とビジネスの両立」「持続可能な循環型地域経済の構築」など、従来型のCSR(企業の社会的責任)とは異なるアプローチについて学ぶことになります。



◇ 2年生・課題解決型研究 ～食と農のSDGs 地域よりの発信～

SDGsに沿った独自テーマにグループで取り組むのが例年のスタイルですが、今年は家庭科の授業と連動し、「食と農のSDGs」に取り組めます。JAめぐみの・とれたた広場、農業生産法人PLUS株式会社、関市商工課のバックアップを受け、レシピコンテストなどの夏季課題や個人によるレポート・ポスター作製を行う予定です（右写真、JA及びPLUSよりの補助）。



残念ながら、例年通りの活動はできませんが、地域と連携し、食と農に特化した活動を行い、地域からの発信をめざします。家庭クラブの活動や家庭科の授業の取り組みは、すでに農林水産省管轄のプロジェクト、「SEKI米粉倶楽部」に認定されていますし、せきの未来・社会貢献プロジェクトには、「米粉と地元野菜を軸とした地元農産品の地産地消」「関市特産のキウイを使った焼肉たれ開発」のふたつのプロジェクトが認定されています。こうした取り組みの拡充をめざす取り組みはすでに始まっています。

◇ 屋久島スタディツアー ～世界遺産の島で自然環境と地域づくりを考える～

今年度予定されていた英国研修は、感染症対策のため中止のやむなきにいたりました。英国研修は次年度に延期となります。こうした状況下で、希望者対象のFRHツアーを安全に実施するため、今年度、新たに屋久島スタディツアーを企画しました。



- (1)事業名： 世界自然遺産・屋久島スタディツアー
- (2)ツアー先： 鹿児島県熊毛郡屋久島町
- (3)指導： 湯本貴和氏（京都大学教授・森林生態学）
- (4)目的：
 - ・自然、産業、文化、まちづくりに関し、フィールドワークや学術交流会を通じて学ぶ。
 - ・学術交流会の場でFRH活動の成果を発表し参加者と交流する。
 - ・姉妹県鹿児島県の高校生との交流を通じ、それぞれの地域課題について学びあう。
- (5)行程表：

12月10日（木）	移動日
11日（金）	フォレストウォーク 第1回（自然観察）
12・13日（土・日）	学術交流会（屋久島学ソサエティ）
14日（月）	フォレストウォーク 第2回（自然観察）
15日（火）	島内見学 歴史民俗資料館 横峯遺跡等
16日（水）	移動日

屋久島には「亜熱帯から亜寒帯までの森林」が分布しています。屋久島は、この植生の垂直分布が連続して残っている極めて貴重な島。50種以上の固有分類群を含む1500種以上の植物の自生が確認されています。まさに植物の宝庫です。ユネスコは、エコツーリズムを奨励して自然遺産の価値を普及するとともに地域に収入をもたらす雇用を生み、地元の人々にも遺産保護の重要性を理解してもらうように努めるべきであるとしています。近年、屋久島にはガイドをめざし定住する若者が増え人口増加に転じています。2013年、屋久島に関する最新の研究成果を共有する「屋久島学ソサエティ」が設立され、以来毎年、屋久島で学術交流を開催しています。関高生もこの学術交流に参加します。